

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事 住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市下京区烏丸七条下る東塩小路町721番地の1		京都タワー株式会社 代表取締役社長 有木 一		記名押印又は印			
京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。							
特定事業者の主たる業種 該当する事業者要件	ホテル・物販・貸室・飲食 <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成18年4月～平成20年3月						
基本方針	エネルギー消費効率の改善、廃棄物排出量の削減、全部署での環境マネージメントシステムの導入により、4%程度のCO2排出量削減を目指す。＜設備管理委託会社に環境方針の遵守・省エネルギーの徹底の協力を依頼した＞						
推進体制	総務部長を長とする、地球温暖化対策本部の設置と実施計画の策定、例月の進捗管理システムを構築する。						
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	18～	空調設備	機器の更新を進め、冷暖房時の熱交換改善、電動機の高効率化でエネルギー使用量を2%削減する（電動機の分解整備を計画実施し効率改善をした）				
	19	冷熱源設備	既存ターボ冷凍機400tをマルチチラー冷凍機4台に更新し、負荷に応じた運転制御の実施で5%の電気使用量を削減する（19年11月実施予定）				
	18・19	照明設備	自然電球を電球型蛍光灯へ、蛍光灯器具を高効率器具（安定器）に順次更新し、計画期間中に3%の電気使用量を削減する				
	18～	第2タワーホテル	ガスコージェネレーションシステムの運用でエネルギー使用量を3%削減する（運用方法の改善により達成可能）				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （17）年度 （二酸化炭素換算（t））	目標年度（計画） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （計画） （%）	報告年度（実績） （18）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （実績） （%）	
	A 事業所等排出区分	5,824 t	5,579 t	-4.2 %	5,572 t	-4.3 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 5,824 t	*2 5,579 t	-4.2 %	*1 5,572 t	-4.3 %	
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）		削減率（実績）	
		取組量等		取組量等			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t		
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t		
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t		
	グリーン電力の購入	(購入量)	GJ	(削減量)	t		
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t		
	削減量等合計			*3 t	*3 t		
	差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）	報告年度（実績）		削減率（実績）
		1 5,824 t	()-(*) 5,579 t	-4.2 %	(*)-(*) 5,572 t		-4.3 %
特記事項	1. 当社では、平成16年度にターボ冷凍機1台（700R-11）を、蒸気焚吸収式冷凍機2台に更新した。＜吸収式冷凍機の高効率運転方法を確立する。＞ 2. 計画期間中において、実施予定の前述以外の主な地球温暖化措置 (1) グリーン購入法対象商品の購入 (2) 従業員環境教育の実施 (3) 地域美化活動への参加						
連絡先	担当部署						
	担当者氏名						
	住所						
	電話番号						
	ファクシミリ番号						

注 1 該当する場合には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください